

第 6 回 SG 伝熱管 ECT 検討会 議事録

1. 開催日時：平成 23 年 8 月 12 日（金）13：30～16：00

2. 開催場所：（社）日本電気協会 4 階 C 会議室

3. 参加者（順不同、敬称略）

委員：坂東主査（日本原子力発電）、越智副主査（関西電力）、泉田（原子力エンジニアリング）、佐藤（発電設備技術検査協会）、高次（三菱重工業）（計 5 名）

委員代理者：林（北海道電力、佐藤代理）、福永（九州電力、猿渡代理）、前田（原子力エンジニアリング、原田代理）（計 3 名）

欠席者：秋山（四国電力）、大高（原子力安全基盤機構）、高取（三菱重工業）（計 3 名）

事務局：大滝（日本電気協会）（計 1 名）

4. 配付資料

資料 6-1 SG 伝熱管 ECT 検討会 委員名簿

資料 6-2 第 5 回 SG 伝熱管 ECT 検討会議事録（案）

資料 6-3 発電技研：佐藤委員のコメント及び回答案

資料 6-4 JEAG4208 における現行 / 改定案の比較表

資料 6-5 スマートアレイプローブの開発と実機への適用性（保全学 VOL.10, No.1）

資料 6-6 JEAG4208 改定スケジュール変更（案）

資料 6-7 原子力規格委員会 構造分科会 平成 23 年度活動計画（案）

参考資料 1 第 30 回構造分科会議事録（案）

参考資料 2 第 40 回原子力規格委員会議事録（案）

参考図書 蒸気発生器 3/4 インチ伝熱管用インテリジェント ECT システムの開発

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

委員総数 11 名に対して本日の出席委員数は 5 名、代理出席 3 名であり、検討会決議に必要な委員総数の 2/3 以上の出席が確認された。

(2) 前回検討会議事録（案）の承認、第 30 回構造分科会議事録（案）および第 40 回原子力規格委員会議事録（案）の紹介

事務局より、資料 6-2 に基づき前回検討会議事録（案）について、前回検討会終了後に配布した議事録に対してコメントがあったので、その内容の紹介があり、その後コメント無く承認された。

また、参考資料 1,2 に基づき第 30 回構造分科会議事録（案）及び第 40 回原子力規格委員会議事録（案）から、最近の規格の審議状況等について事務局より紹介された。

(3) 規格改訂要望の確認について

a. 泉田委員より、資料 6-3 に基づき佐藤委員のコメント及びその対応案が紹介された。

各委員から出された主なコメントは以下の通り。

- ・ ASME では表示画面の最低分解能をビットで指定されているが、日本ではそれを分かりやすく画素数で表示していることは分かった。現在市販されている画面の画素数に比べて最低分解能のレベルが極端に低いので、この表示精度の項目自体なくしてもよいのではないか。

検査の確認事項の一つとしてデジタル表示精度を確認しているので、この規格の利用者が利用しやすい形にする。

- ・ 解説 2-1 及び 2-9 で参照する ASME 規格として、NRC にエンドースされている 2008Addenda を適用しようとしているが、JEAG4208 は日本の規格であり、NRC によるエンドースとは関連がないので最新規格である 2010 年版等を適用してはどうか。

拝承。2010 年版 ASME 適用に問題ないか、内容の確認は行う。

b. 泉田委員より、資料 6-4 に基づき 3/4 インチ伝熱管用インテリジェントプローブ及びスマートアレイプローブを適用した対応案が紹介された。

各委員から出された主なコメントは以下の通り。

- ・ 表 2-2 のプローブ形状のイメージについて、最下段の 2 つは変更されているので、変更していることが分かるように表示した方が良い。

イメージを赤枠で囲む等、変更されていることが分かるようにする。

- ・ 表 2-1 及び表 2-2 の外径 19.05mm 伝熱管用の欄に空欄があるが、対象外については「 - 」等記入すること。

拝承。

- ・ 表 2-1 でインテリジェントプローブに対してガイド部等が変更可能と記載しているが、これは他のプローブも同じではないのか？また、表 2-1 及び表 2-2 に掲載されているプローブ形状以外のものはないのか。

掲載されているものが、代表例であることがわかるように、またコイル部以外のガイド部等の変更ができるように全体に対して注記を入れる等を検討する。

- ・ 解説 2-6 で、現在、MA 材を使用していないのであれば削除してはどうか。

現状のままとするか、修文するか検討する。

- ・ 解説 3-14 や解説 4-3 において、現在の確性試験の位置づけ変更に伴い、削除することに対しては問題ないと考えられるが、修正理由を検討すること。

拝承。

- ・ 単位「mm」は、半角、小文字とする。

一般的に単位表記を確認する。

- ・ 3.1(2)d 項について、位相及び感度の確認方法等について修文したい。

c. 前田氏より、資料 6-5 に基づきスマートアレイプローブの開発と実機への適用性について紹介された。また、高次委員より参考図書「蒸気発生器 3/4 インチ伝熱管用インテリジェント ECT システムの開発」に基づきインテリジェントプローブの開発と実機への適用性について紹介された。

コメントは特になし。

(4) 今後の活動計画の検討について

資料 6-6, 6-7 に基づき JEAG4208 のスケジュール変更案及び平成 23 年度活動計画(案)について確認した。

各委員から出された主なコメントは以下の通り。

- ・平成 22 年度活動実績欄及び平成 23 年度活動計画欄の「3/4 インチ伝熱管用探傷子」は、「3/4 インチ伝熱管用インテリジェントプローブ」に修正する。
- ・平成 23 年度活動計画欄の「計画されている新規プラント」は削除する。
- ・活用を見込む国内外研究成果等欄の「3/4 インチ」を削除する。
- ・分科会，原子力規格委員会上程時期欄は，分科会及び原子力規格委員会とも平成 23 年度下期とする。
- ・規格概要欄の「JSME 維持規格に用いる」は，「JSME 維持規格における」に修正する。

6. その他

(1) 次回の検討会は，10月17日(月)13:30～17:00の予定。

(2) 指針の修正案のコメントは，8月末までに各委員より高次委員及び泉田委員にメールにて送信する。それらのコメントまとめ，反映したものを泉田委員より全委員に配信することとする。

(3) 平成 23 年度活動計画(案)の修正版を，事務局より各委員にメールにて送信する。

以上